

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01828

研究課題名（和文）産業地域における制度的文脈の形成・変容過程に関する国際比較研究

研究課題名（英文）International comparison of the emergence and transformation of institutional contexts in industrial districts

研究代表者

相原 基大（Aihara, Motohiro）

北海道大学・経済学研究院・准教授

研究者番号：40336144

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、歴史民族誌のアプローチを採用した国際比較分析により、国内外の産業地域において制度的な文脈が形成され、経時的に変容していくプロセスを統一的に理解する概念枠を構築することである。それぞれの産業地域に特有な制度的な文脈が当地でビジネスに従事する人々の思考や考え方に与える影響とともに、当地でビジネスに従事する人々の判断と行為が産業地域の制度的な文脈を形づくり続ける過程を記述する基盤的なデータベースを構築するとともに、各産業地域で形成・変容してきた制度的文脈の基底で働くルーティンの識別、産業地域における制度的文脈の安定性を支える要因の析出などの成果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第1に、産業地域で育まれたルーティン、当地の経験を要約する概念カテゴリ、産業地域間での国境を超えた制度的文脈の流出入等の産業地域における制度的文脈の形成・変容過程を動かす基本的な社会的装置の理解により、産業地域の内的な構造特性の比較静的な分析等では実現困難な当地で経時的に展開される一連の事象の因果的な連りの系統的な記述に寄与する。第2に、産業地域で観察されるマクロレベルの現象を当事者の地平から把握する歴史民族誌アプローチの有効性を確認した。複数の人物の視点から歴史資料の読み方や見解を得、合意をはかる同アプローチは、産業地域で生起する現象のより精密な理解を実現する基盤として期待できる。

研究成果の概要（英文）：The study aims to develop a conceptual framework in understanding the emergence and transformation of institutional contexts in industrial districts through international comparative analysis. Empirical data were collected through historical ethnographic research, and the comprehensive database was built for comparative studies. Our study identifies the routines underlying the emergence and transformation of institutional contexts in each industrial district as well as the factors that support the stability of the institutional contexts in industrial districts.

研究分野：経営学

キーワード：産業地域 制度的文脈

1. 研究開始当初の背景

第1に、研究開始当初、産業地域を対象にする研究群では国内外を問わず、産業地域をひとつの分析単位に位置づけ、同地の経済的成果やイノベーション創出能力に結びつけて産業地域の構造特性を理解する理論モデルがひろく提示されていた。産業地域は地域に形作られた機能的な生産体系もしくは地域に形作られた革新的な技術やサービスを生み出していく体系として概念化され、内的な構造特性に関する知見が報告されていた。他方、汎用性の高い理論モデルを構築することに主眼があり現象理解の精度が犠牲になっているとの課題が見出されていた。

第2に、国内では産業地域で育まれた不文律の効果に注目する研究が、海外では業界をあげたナラティブや制度的環境の構築戦略が地域産業の盛衰に与える影響に注目する研究や業界の事業環境は産業地域の当事者にとっては外生的要因ではないとの報告がそれぞれ散見され始めていた。産業地域においてそれぞれの事業者が展開するミクロの行為が、産業地域のマクロな構造特性をどのように生み出し、新たな競争環境への適応を実現していくか等の動的な機序を捉える概念枠が求められる状況であった。

第3に、国内の産業地域が辿ってきた歴史の軌道を理解するには、国際的な視野でとらえ直すことが求められた。国内の産業地域のマクロな動態を、当該業界における国際的な競争の展開との密接な結びつきのなかで紹介する調査報告が現れはじめていた。産業地域の構造特性やマクロなパフォーマンスの長期的な変化がどのような過程を経て生み出されたかを確実に理解するには、①どのような文脈において時々の活動が展開されたのか、②判断を支える当事者の見解は当時に業界を取り巻いていたいかなる制度的な文脈のなかに位置づけられるか、等に関する考察が求められる。他方、産業地域の事業者たちが、国際的に展開される競争をどのように捉え、自らの経営判断や業界単位での方針決定にいかしていたかを記述し分析する手立てが確立されていない状態であった。

以上の背景のなかで、本研究プロジェクトでは、マクロレベルで観察される現象とミクロレベルで観察される行為とをつなぐミッシングリンクである産業地域の制度的文脈が形成・変容する過程を国際的な比較分析により討究し、既存研究の限界を乗り越える試みを計画した。本研究と同様の問題意識をもち、産業地域の動態理解に当地特有の制度的文脈の形成過程を積極的に位置づける立場に関して、欧州にて研究の萌芽はみられていたが、国内ではほぼ未着手な状況であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、歴史民族誌のアプローチを軸にした国際比較分析により、国内外の産業地域において制度的な文脈が形成され、経時的に変容していくプロセスを統一的に理解する概念枠を構築することである。

研究課題の核心をなす学術的な問いは次の2つである。第1の問いは「なぜ、どのように産業地域に特有な制度的文脈が形作られるのか」である。同じ業界に所属しながら、それぞれの産業地域内で通用する専門用語、事業所のタイポロジ、自明視された取引慣習など、産業地域に特有の制度が発達してきた。産業地域は歴史の積み重ねの上で動いている。出来事が起きた時間的な順序やタイミングの問題、長い時間をかけた緩慢な変化の問題といった、調査対象に特有な時間経過を考慮することにより、同じ業界に属する国内外の各産業地域に特有な制度的文脈の形成過程に関する詳細な記述的研究を遂行する。

第2の問いは「業界の国際的な競争のなかで、産業地域に特有な制度的文脈がどのように変容するか。それはなぜか」である。いくつかの業界では、国際市場が成立していくに従い、国内外の産業地域の動向が有力メーカーのグローバル戦略に結びついていく実態が観察される。業界競争の国際化による影響を中心に、産業地域で形作られた制度的文脈の変容過程を国際比較し、産業地域における制度的文脈の形成・変容過程を理解する概念枠を構築していく。

3. 研究の方法

本研究では、眼鏡製造業およびインテリア製造業の2業種から、国内外の産業地域群を取り上げ、(1)歴史的資料に残されたテキストからそれぞれの産業地域に特有の制度的文脈の動態を分析する文書解析、(2)歴史民族誌のアプローチによる資料整理と現場調査にもとづく定性データの収集と読解の2つの調査研究方法を併用した。歴史民族誌とは、歴史的な文献類に残された業界の事象群やナラティブを系統的に整理し、それらを参照しつつ取材やフィールド調査に着手

することで、観察対象の社会的世界で生きる人々の思考、常識、不文律などの文化的・制度的な側面を精密に理解する手法である。マクロな現象の変化を当事者見解と具体的な活動の合成によって説明を試みる手法を採用し、先行研究で暗黙的に採用していたアプローチ（産業地域の構造特性というマクロな現象から産業地域の経済的成果というマクロな変数の挙動を説明する）とは異なり、産業地域のマクロ的な現象を徹底的に当事者の地平から理解する。同手法は、外部観察者の立場から史実をなぞるだけではなく、当地でビジネスに従事する事業者たちの直面していた時々の視界や取引関係の実態をつかむ有力なアプローチと考えられた。

本プロジェクトの期間中、大きく次の3つのステップで研究を推進した。

第1は、産業地域内外で得られた歴史的資料に残されたテキストからそれぞれの産業地域に特有の文脈の動態を計量的および定性的に析出する資料解析の結果に基づき、歴史民族誌のアプローチに沿って実地調査で収集した口述史で裏付けを得ながら、複数の産業地域を対象にしたデータの収集と読解を実践し、記述的な研究の基盤を整備するステップである。研究対象に選定した2業種（インテリア製造業、眼鏡枠製造業）に属する国内外6つの産業地域に関する、1960年代以降における業界の国際競争の展開と産業地域への影響をとらえるデータセットの完備性を高める作業に従事した。同じ業種に所属する国内外の産業地域を対象に、(1)主に業界団体などが発行する公的な刊行物、業界紙誌、各種のアーカイブ記録に残された業界の行為主体のディスコースを対象に2つの手法（計量テキスト分析および質的分析手法）を併用して、それぞれの産業地域に特有な制度的文脈の流列を精確に把握するとともに、(2)実地調査に年表や歴史的資料を持参して当時の視野と各種資料の読み方を教えてもらいながら、それぞれの産業地域に特有の制度的文脈が形作られる過程を具体的な事象や行為、経済的な統計数値の挙動と関係づけて理解を試みた。

国内の3つの産業地域に関しては、実地調査により新たな歴史的な資料と統計記録を入手するとともに、業界関係者へのヒアリングを重ね、情報の信頼性の確保に努めた。国外の産業地域群に関しては、(1)国内で入手可能な文献資料や各種記録を揃え、(2)アアルト大学ラーニングセンターの協力を得て、欧州とりわけ北欧のインテリア製造業に関する資料目録の作成と資料の確保をすすめるとともに、(3)現地にて業界関係者へのヒアリング調査をおこなった。

データベースの構築作業は、Covid 19が世界的に蔓延した影響で長期に渡り実地調査が実現できず、大幅に遅延することになった。主に国外調査に関しては、本格的な実施調査を予定していた研究期間2年目から2年半に渡り、当初計画にあった実地調査がほぼ全面的に実現できなかった。とりわけ本プロジェクトで観察対象とした欧州の産業地域群に関する歴史的資料を現地で収集する活動がかなわず、歴史民族誌の手法に不可欠な基礎資料の確保と整備が大幅に遅れた。本プロジェクトで採用した歴史民族誌の手法では、歴史資料を用いた当事者への聞き取りが不可欠であり、分析の精度に関わる重大な問題であった。研究計画の大幅な見直しを受けるなかで、研究期間を通して国際比較研究に資する基盤的なデータセットの構築を最優先にプロジェクトを遂行することになった。初年度に、実地調査に不可欠な現地での研究基盤の整備（現地の各種機関や業界関係者との社会的ネットワークの構築）を進めるとともに、国際競争に対峙する当地の産業地域に特有な制度的文脈を高い精度で理解する重要な視点（産業発展に対する木工教育機関や国際見本市の果たしてきた戦略的な役割等）を得ていた。渡航できなかった期間では、これらの活動成果をベースに、とりわけ北欧のインテリア製造業を中心に英文資料とともに現地の言語で書かれている歴史的資料を入手し、オンライン環境下で現地協力者の支援を得ながらデータ整備を進めた。なお、欧州のインテリア製造業に従事する1つの産業地域に関しては、当初計画の大幅な見直しにともない比較分析に適した経験的データの収集がかなわず、最終的に研究対象から除外せざるを得なかった。結果、国際的な競争力を備える眼鏡枠の伝統的な産業地域である国内外2地域、インテリア製造業の伝統ある産業地域である国内外3地域が比較研究の対象になった。

第2は、業界ごとに産業地域における制度的文脈の形成・変容に関する探索的な記述的研究の一次的な成果をまとめるステップである、上述の通り、2年半にわたり歴史民族誌の手法に不可欠な実地調査が適わず、調査対象の産業地域毎に調査の進展に著しい分散が生じた。研究期間初年度に繋がりを得た業界関係者や現地の教育研究機関の関係者から協力を得て、まず相対的に良質なデータベースを整備できている産業地域群を取り上げ、それぞれの産業地域に特有な制度的文脈が、業界の国際的な競争のなかで変容する過程に関する個別事例の記述的研究を遂行した。同事例研究を通じて、概念枠を構成する基本的な諸変数を抽出し、産業地域の長期にわたる制度的文脈の形成・変容過程の背後にある社会的な機序に関する仮説的な命題を導出した。

第3は、産業地域間の国際的な比較分析を実践しつつ、産業地域特有の制度的文脈が形成・変容する過程を捉える概念枠の洗練を図るステップである。まず、同じ業界に属する産業地域間の国際比較分析を試みた。具体的には、①国際競争が進展する眼鏡枠産業における国内外2地域の制度的文脈に関する比較研究、②国内市場の盛衰にともなうインテリア製造業に従事する国内2つの産業地域群の制度的文脈の形成・変容過程に関する比較研究、③インテリア製造業に従事

する国内の産業地域における制度的文脈の形成・変容過程と、同業に従事する欧州の産業地域における制度的文脈の形成・変容過程の比較研究の3つのワークを進めた。さらに、本プロジェクトで観察に含めた2つの異なる業界に属するすべての産業地域群の経験を取り上げ、それぞれに関する記述的研究の成果を対照し、産業地域の制度的文脈が形成・変容する過程を生成する社会的な機序の特定を図った。比較分析を進める過程で検知した限界をもとに概念枠自体を見直し、各産地における競争の文脈の形成・変容過程の再分析に従事した。

以上の通り、研究計画の大幅な見直しを受けるなかで、主に実地調査を通して収集した経験的データで構成されるより完備性の高い包括的なデータベースの構築工程を優先的に遂行するとともに、業界の漸進的な展開のもとで国内外の産地群で生起する事象が直接、間接に結びつきながら、それぞれの産地に固有な競争の文脈を形成し、変容させていく現象に関する総合的な考察を試みた。

4. 研究成果

本研究のこれまでの主要な成果は次の4つである。第1に、二次資料、具体的には、観察対象に関する刊行された歴史的資料や既存の調査研究の成果物に関してほぼ網羅的なデータを揃えるとともに、一部の産業地域に関しては当事者たちに歴史的資料を見てもらいながら、当時の視界を聞き取る作業をほぼ終えることができた。それぞれの産業地域に特有な制度的な文脈が当地でビジネスに従事する人々の思考や考え方に与える影響とともに、当地でビジネスに従事する人々の判断と行為が産業地域の制度的な文脈を形づくり続ける過程を記述する基盤的なデータベースを構築できた。

第2に、業界を問わず国内外の産業地域では、業界で時間をかけて育まれてきた通年でのビジネスカレンダーが制度的文脈の形成と変容の過程を動かす主因である可能性を突き止めた。国内において同一の産業に属し、同じ時代を経験してきた産業地域であっても、各当地業界の基底で性質の異なるルーティンが働いていた。各産業地域で形成・変容してきた制度的文脈を当地で事業に従事する人々の視界から精確に理解する際に不可欠な業界の基底で働くルーティンを識別することができた。業界で成立した公的な年間スケジュールに焦点を当て、産業地域で培われたルーティンの生成と作用に関する分析結果と理論的含意を整理し、相原(2022)にとりまとめている。

第3に、産地の経験を要約する支配的な概念カテゴリの構築が、当産地における制度的文脈の安定性を支えていることを示唆する発見事実を得た。それぞれの産業地域が経験してきた過去を要約する概念カテゴリの開発と実践が制度的文脈の形成・変容過程に与える影響に関する分析結果と理論的含意を整理し、相原(2023)にとりまとめている。それぞれの産業地域では、当地業界が経験してきた歴史を要約する複数の概念カテゴリが考案され、制度的文脈の流れに影響を与えていた。なかでも次の4つの性質を備えた概念カテゴリが、産業地域における制度的文脈の形成・変容の過程を生成する作用を備えていた。(1)業界が培ってきた経験をコンパクトに要約し、歴史に一貫性を与える。(2)立場に応じた柔軟な解釈が可能であり、業界に対する認識、見解、意見の違いやギャップがあっても、現状の課題や予期される課題に対する共通の解もしくはレシピとして成り立ちやすい。(3)メーカー自らが展開するビジネスの意味を適応的に説明しやすく、業界を構成するメーカー群にとって活動のテンプレートになる。(4)概念カテゴリに込められた内実を有形物で表現できる。以上の4つの性質を備える概念カテゴリは将来の方向性を指し示すモデルとして働き、同カテゴリを実践して業界を秩序づけ、新たな歴史を刻んでいったことが、産業地域の制度的文脈が質的に変容する過程を駆動していた。

第4に、国外の産業地域群における制度的文脈が選択的に翻訳されて流入し、国内の産業地域で培われてきた制度的文脈の変容軌道に確かな影響を与えている。産業地域はタスク環境の漸進的な変化に直面し、さまざまな文脈が流れ込んでくる。今回のプロジェクトを通して、産業地域を取り巻く素材業界や流通業界の動向とともに、同業の欧州業界におけるビジネス展開の動向が、国内産地の制度的文脈に関する質的な変容軌道を描く一因であることが浮き彫りになった。典型は国内外の眼鏡産地の経験である。眼鏡ビジネスがグローバルに推移していく歴史的な過程で、それぞれの産地における制度的文脈が、眼鏡ビジネス全体の振る舞い、すなわち眼鏡枠企画・製造業のみならず、流通・販売業における新業態の生成・成長や世界的なブランドコングロマリットの成立などのタスク環境の漸進的な展開と、長期にわたる複雑な因果的経路を通して結びつき、特定のタイミングで大きく変容していた。他方、それぞれの産業地域では、ビジネスの年間リズムを整える当地で育まれたカレンダー、産地の経験を要約した概念カテゴリやコードを軸に適応をはかっていた点も見出すことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 相原基大	4. 巻 No. 2022-198
2. 論文標題 産地における業界カレンダーの生成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Discussion Paper in Economics and Business, Hokkaido University, Series B	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相原基大	4. 巻 No. 2023-208
2. 論文標題 産地における「デザイン」の埋め込み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Discussion Paper in Economics and Business, Hokkaido University, Series B	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------